

# 違い尊重 たすきつなく

## 新宿でピポ・ユニバーサル駅伝

### お年寄り、障害者ら350人

お年寄りや障害者、子供たちが互いの違いを認め、尊重し合いながら生きるユニバーサル社会の素晴らしさを体験する「第9回ピポ・ユニバーサル駅伝」(NPO法人「コミュニティアクション・スクエア21」主催、毎日新聞社など後援)が20日、新宿区の国立競技場と周辺コースで開かれ、選手やボランティア、大会関係者約3500人が参加した。思い思いの速さで一本のたすきをつなぎ、会場には笑顔と健闘をたたえる拍手があふれた。

【神足傳輪、渡辺健】



国立競技場のトラックを走る参加者

小學生▽65歳以上の高齢者▽車いす使用者▽障害者▽フリースタイル(規定なし)の各部門の5人と、伴走するボランティアらが10人で1チームを構成。20チームが出場した。午前10時55分に第1走者の車いす利用者がスタート、今回初めて同駅伝のコースに取り入れられた国立競技場内のトラックコースを駆け抜けた。江頭和典



伴走者の助けを受けながら走る参加者

行委員長の米山安一さん(79)とジョギング仲間に参加。平井さんは「無理をせず、ゆっくり笑顔を見せた。



声援を受けながら笑顔で走る参加者—いずれも三浦博之撮影

さん(79)はスタートから次の走者にたすきを渡すまで、自力で走行した。「少し疲れたけど、国立のトラックは気持ち良かった」。伴走したボランティアの樋口幸夏さん(20)は「力強く追いつくのが大変だった」と顔の汗をぬぐった。

第2走者からは1周の国立競技場を走り、2周目の国立競技場内を走る。最高齢の平井和博さん(88)は、大会裏

り歩いた。少し物足りなくらい」と笑顔だった。

足が不自由な中沢カズ子さん(81)は約30分で完走し、「いい運動になりました」。田中啓一さん(36)は双子の娘、結里ちゃん(2)と真里ちゃん(2)の手を両手につないで走った。「大変だったけれど、何とかなった。いろんな人たちが話せて楽しいです」と話した。

正午には全チームがゴールした。各チームでは日本リハビリテーション専門学校や学生がマネージャーとして参加。そのうちの一人、田崎彩華さん(20)は「みんなで協力し、楽しく過ごせました」と笑顔を見せた。

なぞアカ国の男女7人だ。電動車いすで参加した韓国のパク・ユンニョンさん(24)は「駅伝は初めての経験。楽しかった」。バキスタンのムザンミール・イスラムさん(22)は「バキスタンでは、車いすなら車いすだけが参加するイベントはあるが、これだけすべてを包摂したイベントはない。帰国したらぜひ同じような大会を提案したい」と話した。

# 東京 TOKYO

とうきょう支局

〒100-8051  
千代田区一ツ橋  
1の1の1  
TEL03-3213-9701  
FAX03-3212-5186

購読・配達

フリーダイヤル  
0120-468-012  
(終日)

広告・折込

毎日広告社  
TEL03-3213-3721  
毎日折込  
TEL03-3208-8611

天気

最高 最低  
30 23  
東南  
最大風速  
4.5